

# 映画『関心領域』 考察

2025年1月19日

M.Fujii

「悪を知って外道に落ちるか、悪を知って外道を憎むか。それがオメエと俺の違いだ。」

(映画「鬼平犯科帳 血闘 2024」)

「このように世界を覆う死の祝祭からも、雨模様の夜空をいたるところで焦がす熱病のようなひどい劫火からも、いつか愛が立ち現れるのであろうか。」

(トーマス・マン「魔の山」)

「凡人は概して、自分の能力を超えることを全て断罪する。(凡庸な精神は、大抵、自分の力に余るものは全て貶す。)375」

(フランソワ・ド・ラ・ロシュフコー「ラ・ロシュフコー箴言集」)

## ～ 思考停止・無関心が悪を生むメカニズム ～

映画『関心領域』は、アウシュヴィッツを題材にしてはいるものの、暴力的な描写はない。誰かの怒号や銃声が聞こえてくる中で、主人公であるアウシュヴィッツ収容所の所長やその家族が平然と暮らす日常を描いた作品である。怒号や銃声は日常風景に溶け込んでいる。そうした怒号や銃声などへの主人公家族の無関心さは、凡庸な悪の正体そのものと言える。生存が奪われる心配のない者が突きつける残酷さや悪は酷い。

“思考停止、そして無関心が悪を生む” という世界は、自分の能力を超えるアウシュヴィッツを知ることを拒否し断罪する姿勢は、アウシュヴィッツへの無関心そのままの世界である。それは凡庸な悪を蔓延らせる世界であることに他あ

るまい。

ここで、思考停止・無関心と無意識で行動することの差異について考えてみよう。

最初から思考停止で何も考えずに行動するのと、行動を習慣化して無意識で何も考えずに行動出来ることは、絶対的に違う。

良い行動を習慣化しておけば、無関心になり無意識でその後を行動しても怖くはない。悪を蔓延らせることもあるまい。無意識に良い行動が出来るように、最初は意識的に丁寧に行動しておき、それを習慣化する必要がある。

良い行動を習慣化する前に無関心となっていくことは、知らず知らずに悪に陥ることに繋がるであろう。

人の本質を“受動意識仮説”で説明することがある。

人の本質は、無意識の中であって、意識はそれを受け取って解釈しているだけである。他者から見た場合のその人らしさは、その人の無意識の行動に因っている。これを「受動意識仮説」と言う。

無意識の言動・行動と意識的な言動・行動の違いや結果はどうであろうか。

継続的に勉強した上での試験結果や日々の厳しい練習をしてきた上でのスポーツ競技結果は、また無意識に他人を救助支援する行動なども、無意識にかつ習慣的にやっていたら、そうしたことを行う場面で咄嗟に動くことが出来て、成果に繋がるものである。

これに対し、継続的に勉強してこなかった場合の試験結果や日々の厳しい練習を怠ってきた上でのスポーツ競技結果は、また意識的に他人を救助支援する行動などは、成果に繋がりにくい。意識だけで行動しようとする、咄嗟の場合、人は固まって動けないからである。このとき、意識のほうは詰まらない理屈をこねて、出来なかった正当性を主張しがちである。例えば、「Aさんがこのような案件を持ってきたから出来なかったのだ。悪いのはAさんだ。」、「Bさんがアシストしてくれなかったから出来なかったのだ。悪いのはBさんだ。」

人は、無意識の中に入っていないものには、突然の場合、上手く対応できないものだ。逆に、無意識の中に入っているように習慣化していれば、咄嗟の場合にも上手く対応できる。

無意識に出来るように習慣化することには、重要な意義がある。

欧米の大学入試で、ボランティアした内容が重要視される意味は、「人助けを無意識に出来るように習慣化することが、人格形成に重要な意味がある。」からである。

マザー・テラサや老子は、次のようなことを言っている。

「習慣に気を付けなさい。それはいつか性格になるから。性格に気を付けなさい。それはいつか運命になるから。」

良い行動が無意識に出来るように、それを習慣化し、それが“性格”とまで言われれば、それは良い運命をもたらそう。

しかし、無関心が無意識の状態を招けば、そこに悪が入り込むと、それが習慣化し、“性格”となり、悪い運命となる。

映画『関心領域』を観て思うのは、悪が存在しているにも関わらずそれに無関心でいて、そうした無関心でいることに慣れて習慣化する怖さである。

こうした悪が存在しているのに無関心で、その無関心に慣れていることが様々な場面で悲劇を生むのである。

良いこと、善があり、そのことに最初は関心を示し、しかしそれが無意識のうちに常態化して性格となっていくことを地道に続ける以外に、良い運命を持つに至らないのかもしれない。

自分の能力の限り、様々なことに好奇心を持ち、まわりで起こっていることに関心を持ち、良いことや善を習慣化させることが非常に大事なのである。

悪に無関心で習慣化するのは止めないといけない。見て見ぬ振りで悪を蔓延らせてはいけない。悪いことには、はっきりと拒否の姿勢を見せないといけない。

良いことに無関心でいるのか、悪に無関心でいるのか。その後の運命が大きく変わってくるのである。

さて、ここに至って、「良いこと」と「悪」を最初にどう認識し、区別するのだろうか。

人類の共同体が生き残るか否かという判断基準であろうか。

また、自身の無意識での志向は「良いこと」に向かっているのか。

考え続けるほかあるまい。

以上